

次期計画検討部会（第2回）における
主な意見等について

- (1) 市場が何を求めているのかということや大学まで反映し、市場ニーズに合った研究を行うといった仕組みが必要
- (2) 産学官金によるプロジェクトについては、具体的な目標値をある程度頭の中に描きながら進めることが必要
- (3) 産業づくりは、売れる状況をどのように作るかに帰結する
- (4) 健康長寿は当県の売り物だが、産業にリンクさせる仕掛けを県ぐるみ、地域ぐるみで作っていくことが必要
- (5) 金融機関の目利き力、発掘能力、事業性評価力を鍛えることが必要
- (6) 産業イノベーション創出の一役を担っている大学発ベンチャーに対する支援が必要
- (7) 県の施策については、県民に伝わっていないことが多く、もう少しPRの仕方を考えることが必要
- (8) IOT、ITの活用により、県内企業が生産性を上げていく取組も必要
- (9) IOTやAIは技術論が先行するが、省力化、省人化のみではなく、それによってはみ出した人達をどのような産業へ導くのかという論議を同時並行でしていくことが必要
- (10) 時代の求めに応じた新しいものを作っていく（＝産業イノベーションの創出）と、その源泉となる地域資産の磨き上げを同時に取り組むことが必要
- (11) 産学官金によるプロジェクトについては、出口として取り組む価値のある、魅力のある目指す姿やどのような産業集積、製品を作るのかを提示することが必要